

こんぶくろ池通信

2017年6月

第38号

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel & Fax: 04-7132-8800

Email: info@konbukuroike.com

URL: http://www.konbukuroike.com

主な予定

出張工作教室

6月15日(木)

10:00~11:30

場所: T-SITE

トラップ調査

6月23日(金) 午前

トラップ設置

6月24日(土) 午前

トラップ回収

アドバイザー会議

6月24日(土)

13:00~

場所: 管理棟前

「第4回森のコンサート」を振り返って

岡本 昇

5月14日(日)天は味方した、我々NPOに。大げさな言い回しかもしれないが、前日までテレビのスイッチをつけては天気予報を見、何度もの祈り、見ては祈る。この繰り返しでした(天気予報は時として外れることもありなので)。しかも、演奏する学校や模擬店など関係者には、当日「曇り」と報じられていることから、3日前に開催決定の連絡をしていたので。

また、前日はよりによって朝から一日中雨。その雨の中をNPOの仲間が次々と詰めかけ多くの資材や道具を「てづくり広場」に運び込み、まずはテントの設営。その他にも立て看板づくりなどなど、翌日に迫ったイベントの準備を皆さん段取り良くこなしてくださいました。

「森コン」は14年に初めて開催され、今年で4回目。今までは楽器演奏のみのイベントでしたが、今回は従来のスタイルを大幅に変更。その理由は、1号近隣公園のトンボ池エリアを含めた一画(3.5ha)が、園路やトイレ等が整備されることに伴い、今春4月より一般市民に解放される運びとなったことから、でした。「てづくり広場」を市民のアウトドアリビングに、そして、賑わい創出のエリアとして何とか演出できまいか、との思いで1月の役員会に企画等を提案。





基本的な考え方として、①一日中楽しめること ②こんぶくろ池自然博物公園の認知度及び理解度を高めること ③地域社会に貢献すること この三つを柱にして取り組むこととした。早速、演奏候補として、流通経済大学付属柏高校（以下「流経柏高校」という）にアプローチ。色よい返事を頂くとともに近隣の中学校とのコラボはいかがかと相談。間もなく流経柏高校の湯本先生（吹奏楽部顧問）が柏市立西原中学校（以下「西原中」という）に打診、受諾。メジャーな流経柏高校のほかに西原中の出演が内定したことで、演奏に厚みが出ると密かに感じ入る。

一方、公園の認知度等为了提高するためには広報が大切だと、常々思っていることからその強化に乗り出すこととした。柏市緑政課の支援に加えて、広報広聴課（報道・web担当三好氏）を通じて記者レクに。より一層の支援をお願いした上でマスコミ、近隣の工場、大学、団体なども暇を見つけてはチラシなどを持参し訪問（成果として新聞への記事掲載が1社、当日の取材が2社。開催情報の入手はアンケート結果を参照）。

加えて、観客が演奏終了後の午後まで楽しんでもらえるイベントにすべく、具体的な肉付けに苦心。地域社会に貢献する意味でも、食事等の提供が可能な「路地裏マルシェ」の中から会員の渡辺さんを通じて近隣のお店を紹介頂いた。一日を通したイベントになるのでこんぶくろ、いや、いぶくろを満たすマルシェが最低でも一店舗は必要であろうと。当方の思惑通りコンサートが終了するやあちらこちらの芝生の上で、親子がそろって楽しそうに和風ピザをほおぼっていたのが印象的でした。

さて、我々NPOの女性の中で唯一チェーンソーも操れる里ガール、その上可愛らしく、素朴な司会と好評だった新山さんから、コンサートの感想をお寄せ頂きましたので次に紹介します。



新山 洋子

新緑が眩しく輝く5月14日、第4回こんぶくろ池森のコンサートが、開催されました。生憎の曇り空にも関わらず、過去最多ではないかと思われる数のお客様が、開始1時間も前から、続々と詰めかけて下さいました。

今年は、初参加となる西先生率いる柏市立西原中学校の皆様、そして、ご存知、湯本先生率いる流通経済大学附属柏高校の皆様に、演奏をご披露頂きました。

西原中学校さんの演奏は、この日のために、一生懸命に練習されたとだけあって、初々しさの中にも、優しさや迫力を感じさせる素晴らしいしらべでした。

続いて、流経柏高校さんの演奏。流石！実力ある安定感の演奏は、私達を音楽の世界へ一気に引き込みます。しかし、今年は、演奏だけでは、ありません。何と、新体操部さんとチャリダー部さんとのコラボで、ダンス有り歌あり。聞くだけの音楽から、見る音楽という新しい音の世界と出会わせて頂きました。見て、聞いて、リズムに乗せて自然と体も揺れる音楽は、とても愉しく、とても心地良く、幅広い音の世界を見せてくれました。

最後には、西原中学校さん、流経柏高校さん合同の大迫力の演技をご披露頂きました。盛りだくさんのコンサートは、大満足と大感激の拍手喝采に包まれて、フィナーレをむかえました。

近隣住民の皆様と、芝を貼り、草を刈り、一緒に作り上げたこのてづくり広場で、今年も、素敵な演奏会を開催出来た事が、とても嬉しく、とても有り難く、感慨深いものでした。色々な反省点は山積みですが、来年に繋げていけたらと思います。皆様、色々と、ありがとうございました。



さらに、こんぶくろ池に関するパネルや木工工作、ザリガニ釣りなど従来のお楽しみのほかに、芝生のスロープを活かした「パターゴルフ」やウサギと亀のかけっこをイメージした「カメレース」等を企画。

森田さんから、ザリガニ釣りとかメレースの感想もお寄せ頂きましたので次に紹介します。

森田 勝

例年、子供達に人気のアメリカザリガニ釣りと今年初めての試みでミシシippアカミミガメレースを実施しました。いずれも外来種で、日本の生態系上好ましくない影響を及ぼしておりますが、子供達（若いご両親も）は、この遊びを通じ、野生の生きものに触れてその命を愛しみ、外来種から日本の自然を守る大切さを少しでも理解して頂けたのではないかと思います。

（ザリガニ釣り）



会場に応急のいけすを造り、こんぶくろ池で捕らえたザリガニ約70匹を放して釣りを楽しんでいただきました。いけすの周りには、釣り糸を垂れる子供達で一杯になり、中には、子供以上にお父さんお母さんが夢中になり、子供と競い合っている微笑ましい光景もありました。更に、まだ歩行が覚束ない2、3歳の幼児が、ザリガニの仕草に興味深く

観ながら楽しそうに釣り糸を垂れていました。

（カメレース）

3人の子供たちがそれぞれ選んだ3匹のカメが、ゴールまで約3mの距離を競い合うレースでしたが、野生の大きなカメに触ったことが無い子供がほとんどでしたので実際にカメに触り、スタート位置まで抱きかかかえてもらいましたが、怖がりベソをかく子もいました。

10匹のカメに「タロー、ジロー・・・」や「ダイアナ、エリー、ハイジ・・・」等の愛称をつけたのが好評で、子供達は、「サマンサ〜♪！！」、「ベティ〜♪！！」等と声をかけ、拍手をしながらマイカメを真剣に応援していました。

帰り際に、自分が応援したカメに愛着を覚えたのでしょうか？「お家に連れて帰る・・・！」と泣いて両親を困らせていた子供もいました。

レース振りは、カメもイロイロで、ひたすらゴールに走り込むカメや、全くスタートしないカメや、途中で止まり動かないカメや、逆走するカメなど様々で、観ていた若い両親は「スピード第一で落ち着かない世の中を思うと面白いレースですね・・・。」と呟いておられたのが印象的でした。

ちなみに、ゆるり・ゆったり・ゆっくりの全7レースで優秀カメは、ダイアナ、サマンサ、ベティーでした。

むすびに

三大イベントの一つである「森コン」に関係者を含め約750人（主催者発表）の方々が訪れ、お寄せ頂いたアンケート結果によれば、幾つかの課題も散見。姿を変えた今回の取り組みは、次のステップへの糧となり、色々と課題等があるものの「ささやかな第一歩」を踏み出したと言えるのではないのでしょうか。

また、この「森コン」が無事終了できたのは、素晴らしいスタッフ（会員）一人一人の協力のおかげです。支えてくださった全ての皆様に感謝します。とりわけ、流経柏高校との出会いについて付記しますが、第1回森コンの開催に向けて事務局が出演者の選任に苦慮している時、「儀を見てせざるは勇なきなり」とばかりに、私は気軽な気持ちで「近くの流経柏高校に聞いてみましようか」と声をかけたのが始まりでした。流経柏高校の廣瀬清前校長（級友）との縁で始まった「森コン」も4回目を迎え、引き続いてご協力頂いた同校の湯本剛治先生の温かいご支援に、当通信をお借りして、心より感謝申し上げます。初回当時、今日までお付き合いが続くとは思いませんでした。

本当にありがとうございました。